

各推進地区の取組について

義務教育課

1 推進地区の指定について

宮城県教育委員会では、本県の重点的取組の一つである「志教育」の推進・普及に係り、中学校区を単位とする8地区を推進地区として指定しました。

※推進地区

大河原地区、利府地区、大崎地区、加美地区、涌谷地区、美里地区、栗原地区、東松島地区

2 推進連絡協議会について

各推進地区では、推進連絡協議会を立ち上げ、志教育の推進を図りました。

※推進連絡協議会の構成員：事務局は当該教育事務所（地域事務所）に設置

当該市町村教育委員会担当者、推進校の担当教員、当該教育事務所（地域事務所）指導主事、高校教育課指導主事（必要に応じて）

3 推進地区の取組内容について

推進地区では推進連絡協議会を中心に、以下のような取組を実践しています。

- ・推進地区内の実践目標の設定と実施方針の決定
- ・小・中・高等学校及び特別支援学校の連携の在り方の検討
- ・各校種の取組についての情報交換及び全体計画の調整
- ・家庭及び地域と連携した事業展開の在り方についての検討及び実施
- ・事例発表会の企画及び実施
- ・講演会及びフォーラム等の企画並びに実施（事例発表会と併せて開催）
- ・実践事例報告書及び実施報告書の作成
- ・その他志教育の推進・普及のために必要な取組

4 各推進地区の事例発表会について

推進地区名	中学校区	開催日	開催場所
大河原地区	金ヶ瀬中学校区	平成25年 1月22日	大河原町中央公民館
利府地区	利府中学校区 しらかし台中学校区 利府西中学校区	平成24年10月27日	町内各中学校
大崎地区	古川西中学校区	平成25年 2月20日	岩出山スコーレハウス
加美地区	小野田中学校区	平成25年 2月 6日	加美町やくらい文化センター
涌谷地区	涌谷中学校区	平成25年 2月19日	涌谷町立涌谷第一小学校
美里地区	不動堂中学校区	平成25年 1月29日	美里町駅東地域交流センター
栗原地区	若柳中学校区	平成24年12月14日	栗原市若柳総合文化センター
東松島地区	矢本第二中学校区	平成25年 2月13日	東松島市立赤井南小学校

★ 各地区では、平成25年度以降も特性に応じた取組を推進していく予定です。

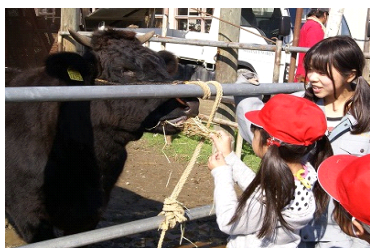
大河原地区：金ヶ瀬中学校区の実践

【推進校】 大河原町立金ヶ瀬小学校, 大河原町立金ヶ瀬中学校, 宮城県柴田農林高等学校

【目標】 「体験活動等とおしながら、人とかかわり、社会の中で、
自分の役割を積極的にはたし、より良く生きる児童生徒の育成」

【取組の概要】 **地域の教育資源（特に農業）を生かした異年齢交流**

○小・高交流「牛舎見学」



○中・高交流「枝豆等種まき」



○小学校 ◇牛見学に行こう／2年（生活科）◇

【かかわる】【もとめる】

・高校生の働く姿から仕事のやりがいや責任を果たすことの大切さについて考える。

○高等学校 ◇牛舎見学の説明／3年（畜産）◇

【はたす】

・自分の果たすべき役割を自覚し、責任を果たす。

○中学校 ◇進路の選択／3年（総合）◇

【かかわる】

・農業高校の生徒とかかわるなかで、これまでの自分を見つめ、学ぶ意義を知る。

○高等学校 ◇枝豆等の種まき指導／3年（野菜）◇

【はたす】

・中学生の進路決定に役立つように、農業高校の実習について知らせる。

「事例発表会」及び「講演会」

○「事例発表会」



金ヶ瀬小1年生の発表

○「講演会」



講師 小荒井千人 氏

講師の慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部教諭である小荒井氏は金ヶ瀬小・中学校の出身で、我が国を代表する恐竜研究者です。講演では、ご自分の志を追いかけてきた体験をお話いただきました。

【成果】

○ 「小・高交流」では、小学生が高校生にあこがれを抱いたり、高校生が小学生とのかかわりの中で自己有用感を高めたりと、年齢差の大きい交流が互いの新たな発見や成長につながった。また、異年齢交流をすることにより、志教育の視点である「かかわる」、「もとめる」、「はたす」が、小・中・高の発達段階でどのように変化していくかが見え、連携時の留意点も明確になった。

○ 地域の教育資源（特に農業）を土台にした取組は、志教育だけでなく様々な教育活動にもつなげることができるため、今後の継続と広がりが期待される。

○ 小・中・高の児童生徒及び教職員の人的交流により、異校種間の理解が深まった。

【課題】

● 中学生の異年齢交流は、年齢差を大きくとれないことから、実施にあたってはさらに工夫が必要である。また、小・中・高それぞれが、交流したことをどのように生かしていくか検討し、より一層系統性のある指導につなげたい。

平成24年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）

利府地区：利府中・しらかし台中・利府西中学校区の取組

【推進校】

利府小，利府二小，利府三小，しらかし台小，青山小，菅谷台小
利府中，しらかし台中，利府西中

【目標】

学校・家庭・地域・行政が一体となり，人や社会とのかかわりの中で社会性や勤労観を養い，集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら，将来の社会人としてのよりよい生き方を探求する児童・生徒を育成する。

【取組の概要】

- ① 教育委員会が主体となり，3つのシップ（ブラザーシップ〈健全育成〉，スクールシップ〈学力向上〉，キャリアシップ〈人間形成〉）による事業を柱にした，学校・家庭・地域・行政の連携及び異校種連携による志教育の推進



高校生がスポーツの指導
（利府高校とのスポーツ交流）

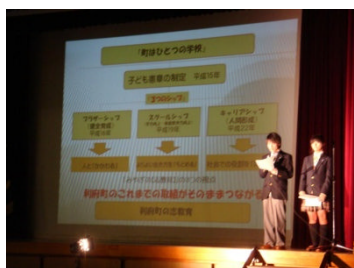


中学生が学習指導
（夏休み学習教室）



幼児に小学校を案内
（保幼小連携）

- ② みやぎ教育月間に合わせ，「十符っ子の日」を設け，保護者や地域の方々に対する「感謝と誓い」の気持ちを表す取組の実施（今年度は10月27日（土）に実施）



利府高生による活動紹介



『夢や志』の意見発表



地域の人の出し物

- ③ 校内研究として『志教育』を实践
（教科や道徳等における『志教育』について学ぶ）



【成果】

3つのシップや『十符っ子の日』が，地域に着実に根ざし，利府町の教育活動の推進力となっているとともに，「志教育」を支える土台となっている。

【課題】

『十符っ子の日』（11月の第1土曜日に設定）を効果的に活用した年間の流れを検討し，より計画的な志教育の年間指導の推進を図ることが大切である。

大崎地区：古川西中学校区の取組

【推進校】

大崎市立志田小学校 大崎市立西古川小学校 大崎市立東大崎小学校
大崎市立高倉小学校 大崎市立古川西中学校
宮城県古川高等学校 宮城県立古川支援学校

【目標】

- 古川西中学校区及び古川支援学校並びに古川高等学校との連携を重視し、小・中・高等学校・支援学校にわたって行う志教育活動の系統性を明らかにすることで、児童生徒の思いやりの心を育むとともに、望ましい社会性や勤労観を養う。

（実践目標）

- 各校の特色に合わせた年間指導計画を着実に実践し、実践事例、指導展開例を蓄積する。
- 各校の志教育活動がどのように連携しているか整理し、図表等に表す。

【取組の概要】

- 小・中・高等学校・支援学校・地域の実態に合った指導計画・展開例を作成する。
- 小・中・支援学校の連携構想図を作成する。
- 小・中・高等学校の志教育連携系統図を作成する。
- 実践事例発表会を実施する。



<実践事例発表会の様子>

【成果】

- 志教育の実践を各校で共有することができ、さらに実践に広がりをもたせることができた。
- 小・中学校と高等学校や支援学校との連携を密にすることは難しかったが、発達段階に応じた指導の重要性を認識する機会を得ることができた。
- これまであまり交流のなかった小・中学校と高等学校や支援学校の中で、推進委員同士の交流が始まり、今後の継続した連携につながるものと考えている。

【課題】

- 年度途中からの取組のため、新たな小・中連携や高等学校・支援学校との交流・連携がうまく図れなかったが、連携の素地はできたので、ぜひ次年度に生かしたい。
- 連携系統図が提案という形になってしまったので、次年度に向けた作成作業計画を考えていきたい。

加美地区：小野田中学校区の取組

【推進校】

加美町立東小野田小学校, 加美町立西小野田小学校, 加美町立鹿原小学校, 加美町立小野田中学校, 宮城県中新田高等学校

【目標】

小・中・高等学校の連携のよりよい在り方を志教育の視点から探り、交流活動を改善・活性化させることによって本学区の志教育を推進し、児童生徒が社会人としてよりよく生きる力を高める。

【取組の概要】

(1) 1学期

- ① 第1回小野田中学校区小・中交流授業参観・講演会（6月1日 小野田中）
・演題：「志教育を身近に」 講師：角田市立桜小学校 教頭 早坂正紀 先生
- ② 3校合同花山野外活動（6月12日～14日 国立花山青少年自然の家）
・3小学校の5年生が一部のプログラム（キャンプファイヤー、登山等）を合同で実施

(2) 2学期

- ① 3小学校6年児童交流会（11月19日：東小野田小）
・ゲーム及び自己紹介、夢の発表、合同給食の実施
- ② 第2回小野田中学校区小・中・高交流会
（11月19日：小野田中学校）
・小学校「夢の発表」、中学校「職場体験等の発表」、
高校「将来の夢についての意見発表」
部活動見学・体験会の実施

小・中・高交流会



《小学生の夢発表》

(3) 3学期

- ① 中学校区全世帯（2,007世帯）にリーフレットを配布
- ② 小野田中学校区連絡協議会「事例発表会」
（2月6日 やくらい文化センター）
・「おのだの志教育」、小・中・高等学校の事例発表等

小・中・高事例発表会



《中学生の職場体験発表》

(4) その他

- ① 小・中・高等学校の体験学習、職場体験等の「人材リスト」の作成
- ② 「志教育年間交流活動表」の作成
- ③ 小野田中学校区連絡協議会及び担当者会議の開催

【成果】

- (1) 交流活動を通して、児童生徒に自信をもって話すきっかけづくりを行うことができた。
- (2) 異校種間で連携することによって、児童生徒に夢のイメージと思いやりを育てることができた。
- (3) 志教育の視点で交流活動の見直しを図ったことが、その意義や目的を明確にすることにつながり、有意義な活動を行うことができた。
- (4) 教職員間で打合せを重ねた結果、意思疎通が十分に図れるようになり、交流活動を一層充実させることができた。

【課題】

- (1) 志教育指導計画の共有化による発達段階に応じた指導・支援の在り方の工夫。
- (2) 積極的な情報発信と地域の人材活用などを進め、地域と共に成長する志教育の推進。

涌谷地区：涌谷中学校区の取組

【推進校】 涌谷町立涌谷第一小学校，涌谷町立月将館小学校，涌谷町立涌谷中学校
宮城県涌谷高等学校

【目標】 明確な志をもち，その実現に向けて，自ら考え，粘り強く行動する人間を育む
－授業づくりを中心とした，小・中・高等学校をつなぐ志教育の推進－

【取組の概要】

(1) 涌谷町の志教育

- ◎ 涌谷町の「志教育」－各発達段階で育みたい力の一覧表作成
各発達段階で育みたい力の一覧表を作成。それに基づいた実践を行うことで，小・中・高等学校を通じた「志教育」を進めた。
- ◎ 涌谷町の既存制度との関連付け
涌谷町教育研究員制度や小・中・高等学校連携事業を活用して，研究を推進した。
- ◎ 各学校の特色を生かした教育実践
各学校において各発達段階で育みたい力に基づき，「志教育」3視点6内容を意識した授業づくりを行った。

(2) 小・中・高等学校をつなぐ取組

- ◎ 涌谷中学校区の児童生徒の実態調査を行い，育みたい力に基づいた授業の実践，評価，反省を行った。
- ◎ 異校種間での授業参観や部活動見学を行い，児童生徒間の交流や主体的な自己探求の契機とした。
- ◎ 「二分の一成入式」（小学校），「立志式」（中学校），「桜風タイム（総合的な学習の時間）」（高等学校）などの教育活動において将来の夢について発表や文章表現で，各発達段階での将来の夢を確認させた。

【成果】

児童生徒の各発達段階で育みたい力の一覧表を作成し，実践，検証を重ねることで，涌谷町独自の「授業づくり」を中心とした取組を行うことができた。志教育を総合単元的な学習と捉え，日々の教育活動の中で，どのように志教育を進めていけばよいのかを共有できた。振り返りカードに記入することで，将来進むべき方向に関する意識を高めることができた。

【課題】

児童生徒の間に，自己有用感を実感している度合いが低いことから，学校で学ぶ知識と社会や職業との関連を実感させながら，学校生活や地域の中で，体験を通して自己の役割や責任を果たさせる場を意図的に設定していく必要がある。連絡協議会はこれまでの教育活動を「志教育」の視点から授業づくりの改善を目指してきた。今後10年間を見通した実践は，涌谷町でも始まったばかりであり，「志教育」の理念を共有しつつ，課題となっている部分を改善しながら，今後も志教育の推進に努めていきたいと考える。



志教育を意識した授業づくり



学校間連携事業 部活動体験

平成24年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）
美里地区：不動堂中学校区の取組

【推進校】

美里町立不動堂小学校，美里町立青生小学校，美里町立不動堂中学校，宮城県小牛田農林高等学校

【目標】

「人や社会とのかかわりを通して，将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求める児童・生徒を育成する。」という全体目標を設定した。


【取組の概要】

1 「志教育」を学校経営の中に明確に位置付ける。
「志教育」を学校経営の中に明確に位置付け，「いつ・どこで・何を・どのように」という趣旨を明らかにした。

2 指導の構造図を作成しその活用を図る。
作成した指導の構造図では，人や社会等との出会いの中で「知識・技能」を習得し，それらを活用しながら思考力・判断力・表現力を高めることが，「よりよい生き方」を考える際の意欲や自信となったり，価値あるものを認識し行動したりする際の原動力になることを示している。また，よりよい生き方を求めるためには，人や社会との出会いだけではなく自然とかかわることも大切であることを示している。



3 4つの段階（「出会い」「触れ合い」「学び合い」「発信」）を設定する。
「志教育」の3つの視点を，より児童一人一人に実感をもってとらえさせるために，4つの段階を設定した。4つの段階とは，「出会い」「触れ合い」「学び合い」「発信」であり，それぞれのとらえ方は次の通りである。

4つの段階	☆ 各段階のとらえ方	活動の様子
出会い	☆人や見慣れた社会的事象・自然事象，見過ごしている社会的事象・自然事象と改めて向き合う段階である。	 〈山神社の 神主さんとの出会い〉
触れ合い	☆出会った人や社会的事象，自然事象とかかわりながら実感をもって知識・技能を習得する段階である。	
学び合い	☆出会った人への聞き取りや友達との情報・意見交換を通して，「よりよい生き方」「今の自分にできること」「大人になって是非取り組んでみたいこと」について再考する段階である。	
発信	☆「触れ合い」「学び合い」の段階で考えた「今の自分にできること」「大人になって是非取り組んでみたいこと」等を，学校内や地域社会に発信する段階である。	

【成果】

- 「志教育」を学校経営の中に明確に位置付けたことにより，各校での志教育の位置付けや教科等の関連について共有するとともに，小・中・高の志教育の指導の連続性や発展性を把握することができた。
- 指導の構造図を基にして実践活動を積み重ねたことは，知育・徳育・体育の3つのバランスのとれた「生きる力」の育成と「志教育」との関連を実感をもって理解するとともに，小・中・高の連携を深めることができた。
- 「出会い」「触れ合い」「学び合い」「発信」という4つの段階のとらえ方は，単元（題材）指導計画を作成する際の拠り所になった。また，児童・生徒一人一人に自分の成長や進歩を振り返らせる際の視点としても役立った。

【課題】

- 次年度は，「出会い」「触れ合い」「学び合い」「発信」の4つの段階を生かしながら，より児童の意識の流れに沿った単元指導計画を作成し，それに基づいて実践活動を積み重ねていく必要がある。
- 不動堂中学校の志教育の概要を，美里町内の他の中学校区に発展させていく。

平成24年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）

栗原地区：若柳中学校区の取組

- 【推進校】 栗原市立若柳中学校（0228-32-3831） 栗原市立若柳小学校（0228-32-2134）
栗原市立大目小学校（0228-32-2322） 栗原市立有賀小学校（0228-32-2589）
栗原市立大岡小学校（0228-32-2324） 栗原市立畑岡小学校（0228-33-2330）
※ 連携した高等学校 宮城県迫桜高等学校（0228-35-1818）

【目標】

社会の一員としてよりよく生きるため、人や社会とかわる中で望ましい社会性や勤労観を養うとともに、将来へのしっかりとした「夢」や「志」をもった児童生徒を育成することをねらいとして以下のことに取り組む。

- (1) 小・中・高の連携を図り、各発達段階における望ましい学びの主体性や勤労観・職業観の育成を図る。
- (2) 各校種間の連携による、「志教育」の円滑な推進を図る。
- (3) 推進地域各校との連携により、児童生徒の健全育成のための家庭及び地域との連携の在り方を探る。

【取組の概要】

- (1) 事例発表会を兼ねた「小中高交流・発表会」の実施
- (2) 若柳の志教育全体構想図の作成
- (3) 夢シート「広がる夢」の活用と改善
- (4) 各校の取組と若柳地区小中高の連携紹介リーフレットの活用
- (5) 若柳地区志教育人材バンク名簿の作成
- (6) 年間計画、実践事例集の充実
- (7) 志教育活動案の充実
- (8) 志教育だより配布（畑岡小）
- (9) 報告書の作成



【小中高交流・発表会】児童発表



【小中高交流・発表会】シンポジウム

【成果】

- (1) 「小中高交流・発表会」の実施（事例発表会を兼ねての実施）について
 - ・ 夢や志について考え、児童生徒が自己の生き方を見つめる上で大変有意義であった。
 - ・ 社会人シンポジストの話が、参加した児童生徒にとって印象的なメッセージとなった。
 - ・ 今年度は、若柳中学校区の全教員が「小中高交流・発表会」に参加し、中学校区として「志教育」を共通理解する、よい機会となった。
 - ・ 保護者の参加も見られ、今後も「小中高交流・発表会」を継続実施することで、保護者や地域への啓発につながる取組となった。
- (2) 志教育支援事業推進地区連絡協議会について
 - ・ 夢シートの改善、人材バンク名簿の作成、実践事例集の累積、全体指導計画の充実、志教育だよりの発行など、次年度につながる取組となった。
 - ・ 連携の高等学校の協力体制、担当者の連携、栗原市教育委員会の支援が大きな推進力となった。

【課題】

- (1) 今年度の取組を通しての課題
 - ・ 若柳中学校区として、本年度までの取組を次年度以降にどのようにつなげ、地域連携事業として継続させていくかが大きな課題である。
- (2) 課題に対する次年度に向けての取組
 - 次年度の確実な実践を図るために、以下の点を確認して進めていく。
 - ・ 連携の柱となる「小中高交流・発表会」を次年度も12月に実施する。その会に向けての準備会を5月に行う。（構成：小・中・高・各校長、志教育担当、発表学年担当、シンポジウム代表学年担当）
 - ・ 事業は終了するが、志教育の取組継続のため同地区では小・中学校が交互に事務局を担当する。

東松島地区：矢本第二中学校区の取組

【推進校】東松島市立矢本第二中学校・同大曲小学校・同赤井小学校・同赤井南小学校
宮城県石巻西高等学校

【目標】

地域の人や産業とのかかわりを通して、学校や地域社会の中で自己の果たすべき役割を自覚させ、将来、東松島市の震災復興を担う児童生徒を育成する。「豊かな情操や人間性」「理想の実現に向かって生きる力」「志を持って自立していくために必要な能力」「社会に寄与する態度」等を育てる。

【取組の概要】

- ① 東松島市全域で展開してきた「心あったかイートころ運動」（あいさつ・清掃・ごみ拾い）をさらに充実していく。

小・中交流事業と位置づけ、「毎月2の日」登校時に中学生が小学校に出向き、あいさつ運動を展開した。

- ② 既存の小・中及び中・高交流行事、各校の地域連携行事を「志教育」の「もとめる・かかわる・はたす」の3視点で見直した年間指導計画を立案・実践していく。その過程で、児童生徒自身がその活動に意義・価値を見出していく指導を展開した。

□小・中交流活動（中学校への授業・部活動参観）（小学校教諭による中学校授業参観）

□中・高交流活動（高校文化祭への中学生参加）（高校教諭の中学校への出前授業）（中学校教諭による高校の授業づくり参加）（高校との部活動交流）

□学・社連携事業（小学校：NPO 法人との協働：被災水田を綿花畑に変える事業）（小学校：地域祭りへの参加：和太鼓の伝承活動）（「小学校：先人に学ぶ」道徳の授業＝地域の先輩がゲストティーチャー）（中学校：「職業人に学ぶ会」「職場体験学習」の実施）（高等学校：国際理解教育の充実）



【2の日「あいさつ運動」】



【児童の脚本による志をテーマとした劇の発表】



【伝統芸能の継承】

- ③ 志教育の広報・啓発活動を促進していく。

各校で広報活動に努めるとともに、2月に「志教育実践発表会及び講演会」を開催した。

【成果】

- ◇ 「心あったかイートころ運動」の活動が、より児童生徒主体へと変わってきている。
- ◇ 教員の「志教育に対する考え方」に、より深まりが見られるようになってきている。
- ◇ 地域の諸団体との連携が図りやすくなってきている。
- ◇ 校種連携が図りやすくなってきている。
- ◇ 「郷土を愛し大切にしよう」との見方・考え方が広まってきている。

【課題】

- ▲ 各校で「自己肯定感を育む授業づくり」「社会的役割を意識した諸活動」をさらに求めていくこと。
- ▲ 市内全域で校種間を貫く系統的かつ計画的な志教育の展開をはかること。
- ▲ 協働教育プラットホーム事業との関連を明確にした活動を整備していくこと。